

Title	大阪大学低温センターだより No.94 裏表紙
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 1996, 94
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/21927">https://hdl.handle.net/11094/21927</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 〈 編 集 後 記 〉

平成8年度がスタートしました。大学内にも新入生を含む多くの学生の姿が見受けられ、教官の方々も気持ちを新たに新学期に望まれていることと思います。さて、今回の不況は工業技術分野で我が国が世界をリードするまでに成長し、他国では生産できない高付加価値の製品を作り出すだけの実力を持ったことのあらわれといえます。原因となった円高は一時的には緩和されたものの、日本の技術力が世界をリードするものである限り、本国通貨の価値が上がることはあれ、下がることはありません。先輩方、そして我々が心血を注いで培ってきた工業技術力によって、逆に自らが首を絞められる事態に直面するといった矛盾が現れます。しかし、よくよく考えてみれば、欧米から日本の科学技術ただ乗り論が声高に言われているように、本当にオリジナルな科学技術への貢献が、我が国の国力に比べて少ない点は、すでに我々自身が世界に向けて投げかけたことへの見返りなのかもしれません。我が国が技術立国として真にオリジナルな科学技術を創出し、これを世界に向けて発信し、これをもとに世界のために貢献できたとき、望まずとも豊かさや繁栄がもたらされるはずで、この様な現状に鑑み、各企業が基礎研究を重視した研究開発型への脱皮を模索する中で、機を一にして大学においても改革が行われ、さらに通産省・科学技術庁等の各省庁が、大学を中心とした基礎科学分野の充実を掲げた新しい政策を打ち出しています。オリジナリティーに富んだ基礎研究と、そこから生まれ社会に貢献し得る応用研究を、学官産が丸となって推し進めるための体制が整いつつあります。21世紀に向け、我が国が本物の科学技術立国となり、真に世界に貢献するための基盤が、凶らずも今回の不況をばねに出来上がろうとしているのです。研究に対するみなさんの、なお一層のご精進、ご努力が望まれているといったところでしょうか。

(遠藤勝義、押鐘 寧)

大阪大学低温センターだより 第94号

平成8年4月 発行

編集責任者 鷹 岡 貞 夫

発 行 者 大阪大学低温センター

吹田分室 大阪府吹田市山田丘2番1号

電話 (06) 879-7985

豊中分室 大阪府豊中市待兼山町1番1号

電話 (06) 850-6691

印 刷 所 阪東印刷紙器工業所

大阪市福島区玉川3丁目6番4号

電話 (06) 443-0936 (代表)

# 目 次

No. 94

## 巻頭言

阪大低温センター今昔物語

..... 浜川 圭弘..... 1

## 研究ノート

蛋白質の安定性

.....蛋白質 研 油谷 克英..... 3

分子の回転運動をプローブにしたマイクロポアーの探索

.....理 学 部 江口 太郎..... 9

電荷密度波の巨視的量子トンネル現象

大阪大学大学院理学研究科

.....理 学 部 松川 宏 三宅 博之..... 14

平成7年度 寒済供給状況

..... 25

表紙説明：量子トンネル現象がおこるポテンシャル $V(r)$ （実践）と虚時間の経路積分で考えたときバウンス解がその中を運動する逆ポテンシャル $V(r)$ （破線）。Aは準安定点、BはAの等エネルギー点。（本文p.14参照）